# 研究テーマ 偶然の出会いから生まれる在宅看護ケア

所属 大学院学術研究部医学系

助教 北谷幸寛
https://researchmap.jp/YukiKitatani

| | |
|---|---|
| 研究分野 | 看護倫理学を基盤に在宅終末期ケアを探究するケアサイエンス研究 |
| キーワード | 在宅，ケアの倫理，安楽，当事者 |

研究室URL：

## 研究の背景および目的

人生の終わりが近づいたとき、長く生きること」だけではなく、**どこで、誰と、どんなふうに過ごしたいかが大切です**。家で療養する場面では、看護師、本人、家族がその場で出会い、迷い、思いがけない出来事が起こる中で、「今、この人にとって本当に大事なことは何か」を考え続ける必要があります。そうした**予想できない場面で生まれるケアの大切さ**に注目し，「正しい答え」を探すのではなく、**人と人とのあいだで、その場にしかない支え方がどう生まれるのか**を明らかにすることが目的です。



## ■主な研究内容

この研究では、在宅で療養する人と訪問看護師のかかわりをていねいに調べます。
インタビューや観察を通して、教科書どおりでは説明できない、**偶然の出会いやその場のやりとりの中で生まれるケア**を集めていきます。
たとえば、
•何気ない会話が、その人の不安をやわらげた
•看護師の予定外のひと言が、本人や家族の考えを変えた
•「治す」だけではない、その人らしい生き方を支える関係が生まれた
といった出来事です。
さらに、こうした実際の経験を、哲学の考え方も使いながら読み解きます。
つまりこの研究は、**現場のリアルな体験**と**人間について深く考える学問**をつなぐ研究です。

## 期待される効果・応用分野

この研究が進むと、看護は「決まった正解を当てる仕事」ではなく、
**その人と出会い、その場で最善を一緒につくっていく仕事**だということが、よりはっきり見えてきます。
その成果は、次のような場面で役立つと考えられます。
- 訪問看護や終末期ケアの質を高める
- 看護師が難しい場面で考えるためのヒントをつくる
- 看護教育で「人に寄り添うとは何か」を学ぶ教材になる
- 医療だけでなく、介護や福祉、地域での支え合いにも応用できる

この研究は「人を助ける」とは何か、「誰かと生きる」とは何かを考えるきっかけになります。
科学や医療の研究でありながら、同時に**人間そのものを考える研究**でもあるところが、この研究の大きな面白さです。

## ■共同研究・特許など

この研究は、大学だけで完結するものではありません。
実際に在宅医療や訪問看護を行っている現場と協力しながら進めます。
また、看護学だけでなく、倫理学や哲学の視点も取り入れ、**いろいろな分野を横断して進める共同研究**です。
特許を取るような機械や製品を作る研究ではありませんが、
その代わりに、**人を支える新しい考え方や、看護の現場で使える実践モデル**を生み出すことを目指しています。

富山大学研究者プロファイルPure URL：
https://u-toyama.elsevierpure.com/ja/persons/yukihiro-kitatani/